

親子で学ぼう！船と港の体験学習

貿易量の99・7%、国内貨物輸送の約3分の1を担う海運は、我が国経済・国民生活を支えるライフラインであり、安定的な海上輸送の確保は、我が国の発展にとって極めて重要な課題です。しかしながら、現在、内航船員の後継者が不足し、安定的な海上輸送の確保が懸念される状況にあります。

そこで、沖縄若年内航船員確保推進協議会（事務局：沖縄総合事務局）では、去る1月25日（土）、小学生及びその保護者を対象に、海事産業や船員という職業に対する理解を深める取組として『親子で学ぼう！船と港の体験学習』を実施しました。



操舵室で船長の説明を聞く

参加者は、小学生25名・保護者21名、計46名でした。

当日は、最初に、渡嘉敷村の協力を得て「フェリーとかしき」の船内を見学しました。普段は入ることのできない操舵室や機関室も見学することができ、目を輝かせて船員さんの説明を聞いていたのが印象的でした。「こんなに大きな船なのにハンドルが小さい」、「たくさんのエンジンや機械を操作できるってすごい。」等発見や驚きがたくさんあったようです。

次に船員会館に会場を移し、沖縄水産高等学校教師による学校紹介等を通じて船員の仕事や資格について学びました。



機関室の見学

最後に、大型バス2台に乗り込み、那覇埠頭フェリーターミナル、大型旅客船バース、那覇新港を車内から見学し、接岸している貨物船の大きさに声をあげて驚いていました。

事前の海事産業に関するクイズの正解率は46%でしたが、体験後には正解率は73%に増え、また事前アンケートでのなりたい職業については、船に関する仕事を書いた児童は3名でしたが、体験後には17名が船長や機関長など船に関する仕事をやってみたいと回答していました。参加者は、海事産業への興味が深まると



車両甲板部の見学

もに船員の仕事に関心を持ったようで、閉会後も熱心に沖縄水産高等学校について質問をする保護者の方もいました。

当協議会では、今年度、中学生及び保護者・教員、高校生、小学生及び保護者を対象とする3事業を開催しました。来年度も引き続き海事思想の普及・啓発活動を行い、若年船員の人材確保・育成に関する取組を推進します。



「フェリーとかしき」